

# 令和2年度 防災・減災に関する県民意識調査結果

## 1 調査の目的及び集計結果の概要

### (1) 調査の目的

- 広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の令和2年度の取組実績の把握
- 運動を進める上での課題の抽出や、その解決方策の検討

(ア) 対象者	: 県内在住の満18歳以上の男女5,000人
(イ) 調査期間	: 令和3年2月26日(金)～3月12日(金)
(ウ) 有効回答数	: 2,667件 (回答率53.3%)

### (2) 集計結果の概要

行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果								R2 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)	R3 (2月)	
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	60.5%	57.2%	71.2%	68.5%	<b>71.6%</b>	90.0%以上
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	36.8%	39.4%	29.3%	41.5%	<b>44.9%</b>	60.0%
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	67.6%	67.4%	66.5%	69.1%	<b>70.8%</b>	—
上記を用意し、かつ3日以上 の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	—	—	—	46.7%	50.5%	48.1%	52.3%	<b>54.6%</b>	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	—	—	—	43.9%	56.6%	44.7%	49.0%	<b>51.6%</b>	70.0%

行動計画に掲げる成果指標項目	H26	H27 (10月)	H28 (9月)	H29 (2月)	H30 (3月)	H31 (2月)	R2 (3月)	R3 (3月)	R2 (目標)
県、市町の防災情報メールを登録している人の割合	8.4%	10.4%	11.3%	11.3%	22.8% (※)	27.0% (※)	31.1% (※)	<b>32.9%</b> (※)	40.0%

※ ヤフーと協議し、H30.3.27から、「Yahoo!防災速報」(スマートフォンアプリ、メール)からも県防災情報メールと同様の情報がプッシュ配信されることとなったことから、この度の数値は、防災情報メールの登録者数に「Yahoo!防災速報」登録者数を加えて算出している。

## 2 集計結果の分析等

この度の調査の集計結果について、「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の成果指標とする行動をとっている人に見られる傾向などから、その数値を押し上げている主な要因、逆に伸びていない要因や課題などを探るため、例年2月に実施している調査と同様に広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動推進会議の委員でもある2名の有識者により、社会心理学並びに防災の観点からの分析等を行っていただいた。

(有識者) 広島大学大学院人間社会科学研究所 教授 坂田 桐子 氏 (社会心理学)  
 山口大学大学院創成科学研究科 准教授 瀧本 浩一 氏 (防災)

## 3 行動計画に掲げる成果指標ごとの分析概要

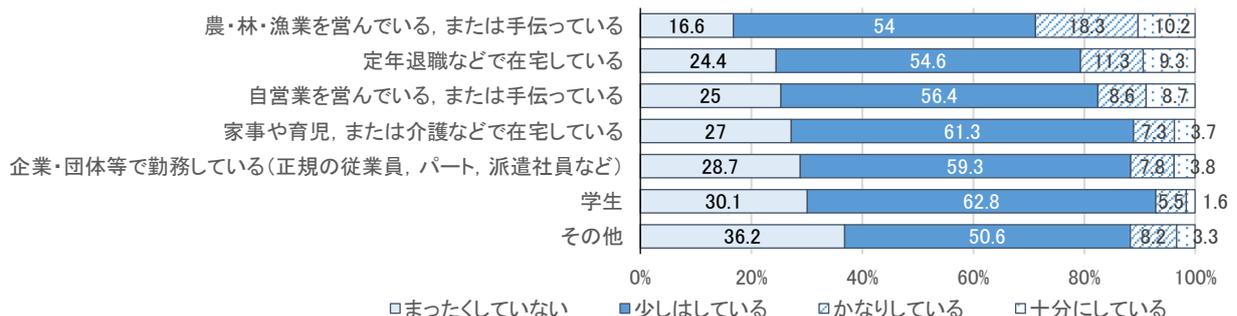
### (1) 【行動目標】身の周りの災害危険箇所などを「知る」

行動計画に掲げる 成果指標項目	調査結果								R2 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)	R3 (2月)	
災害の種類に応じた避難場所・避難経路を確認した人の割合	13.2%	27.0%	54.0%	60.5%	57.2%	71.2%	68.5%	<b>71.6%</b>	90.0% 以上

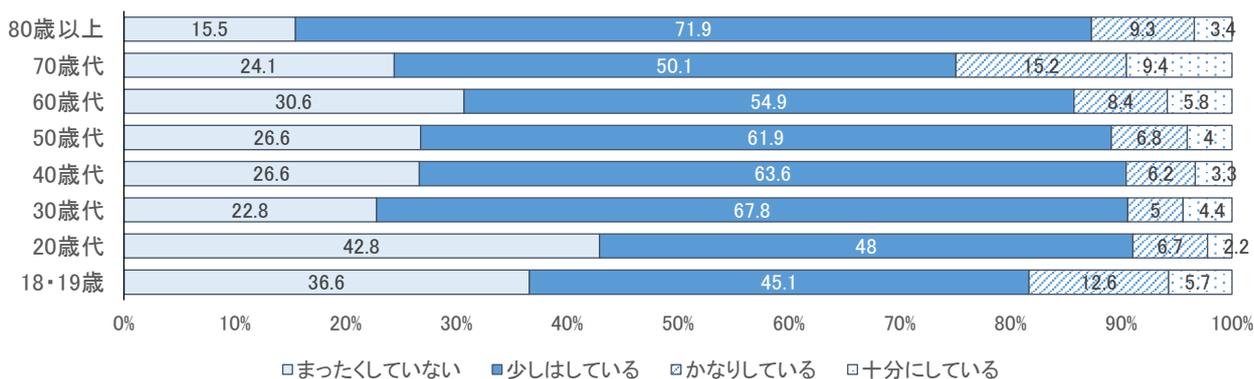
- 避難場所・避難経路を確認した人の割合について、生活形態別(※)では、「農林漁業」が「82.5%」と最も高く、次いで「定年退職などで在宅」の「75.2%」となっている。
- 災害の危険性を確認するに当たって、困っていることでは、「どうやって確認するか分からない」が「36.2%」で最も高く、「調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」が「25.0%」となっている。前者と答えた割合が高いのは「家事や育児などで在宅」、後者と答えた割合が高いのは「農林漁業」となっている。
- また、避難場所・避難経路を確認していない人の割合について、生活形態別では、「学生」が「30.1%」と最も高くなっている。

※ 生活形態の分類 ～ 「企業・団体勤務」、「自営業」、「農林漁業」、「家事や育児などで在宅」、「学生」、「定年退職などで在宅」

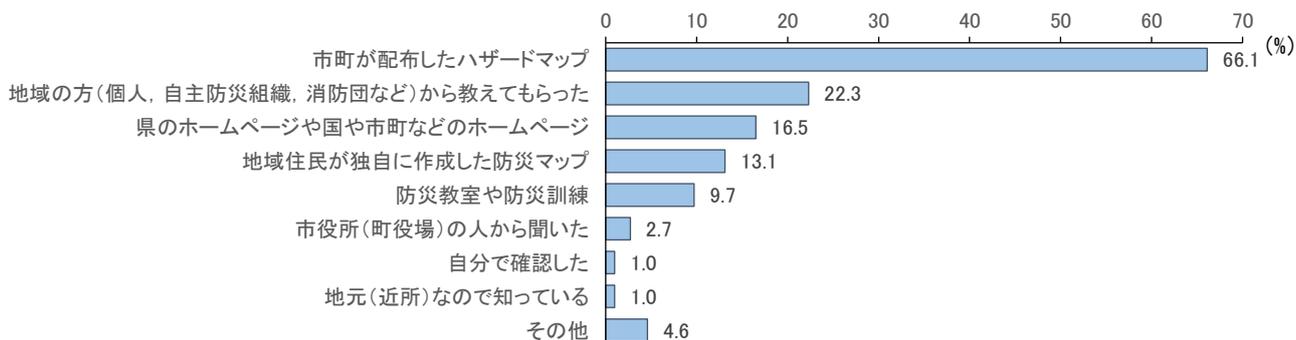
### <避難場所や避難経路の確認の有無「生活形態別」(Ⅱ：問4)>



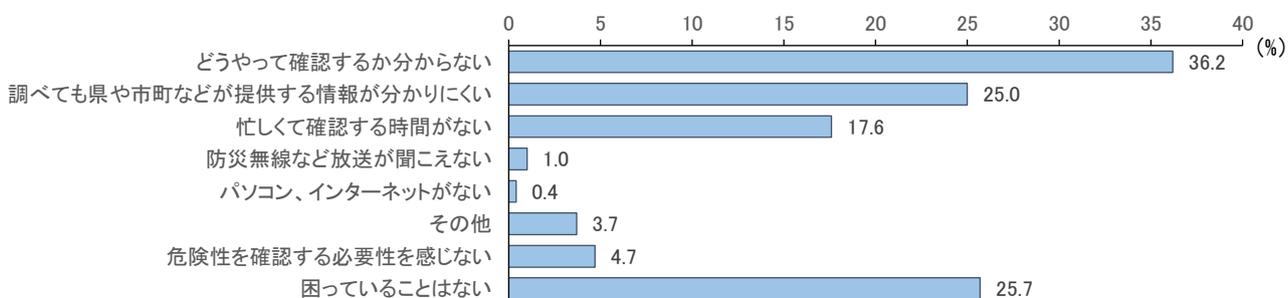
<避難場所や避難経路の確認の有無「年齢別」(Ⅱ：問4)>



<避難場所や避難経路の確認方法(Ⅱ：問4-2)>



<災害の危険性を確認するに当たって、困っていること(Ⅰ：問10)>



ア 有識者による分析や示唆など

- 目標達成には至らなかったが、比較的順調に増加している。
- 10代・20代の若年層や、町内の人と付き合いがない人については、避難場所や避難経路を全く確認していない割合が高い。このことについて、若年層は未婚で家族を持たないため、周りに守るべき大切な相手がないなど動機づけがないことや、親と同居していた場合、世帯主の親が代わりに行っている可能性が考えられる。また、近所付き合いのない人は、居住地の災害リスクなどについて近隣の人から聞く機会が少ないため、全体的に防災意識が喚起されにくいものと考えられる。

- 身の周りの災害リスクを確認する方法について、地域コミュニティの希薄化を考えると、近所の人や住民自治組織等から聞く機会は少ないため、各種メディアや職場を通じた呼びかけが重要である。
- 災害の危険性を確認するに当たって「確認方法がわからない」という人が多いのは、そもそも防災情報をどこから取ればよいか分からないという、情報源の啓発不足が考えられる。
- また、「調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい」のは、行政のホームページの構成が複雑で分かりにくく、啓発情報ページを設置している階層の位置やそこへ誘導する経路の工夫が必要であると考えられる。
- 学校においてマイ・タイムラインを活用した防災教育を進めることは、自ら避難場所や避難経路を調べる取組を促進することとなるため、身の周りの災害リスクを確認することに有効であると考えられる。

#### イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 小学校を中心に「ひろしまマイ・タイムライン」を活用した防災教育を進めるとともに、宿題等の家庭学習により保護者へもその学習効果を拡大させることにより、「ひろしまマイ・タイムライン」をきっかけとした防災意識の向上に取り組む。
- 学校において「ひろしまマイ・タイムライン」を活用した防災教育が定着し、すべての生徒がマイ・タイムラインの作成に取り組めるよう、教育機関との協議による教材の見直しや、マイ・タイムライン推進員による出前講座に取り組む。
- 報道機関と連携し、テレビやラジオ等の各種メディアや「みんなで減災推進大使」等を活用した呼びかけにより、防災の機運醸成に取り組む。
- 主に若年層や地域との付き合いが希薄な層を対象に、スマートフォンの防災アプリを活用して、避難場所・避難経路の確認やマイ・タイムラインの作成を行うなど、これまで防災に無関心だった層の防災意識の向上に取り組む。
- 引き続き、自主防災組織の充実を図るため、機運が高まらない地区や活性化していない組織へ自主防災アドバイザーを派遣し、指導・助言を行い、活性化を図るとともに、自主防災組織による避難の呼びかけ体制構築に取り組む。

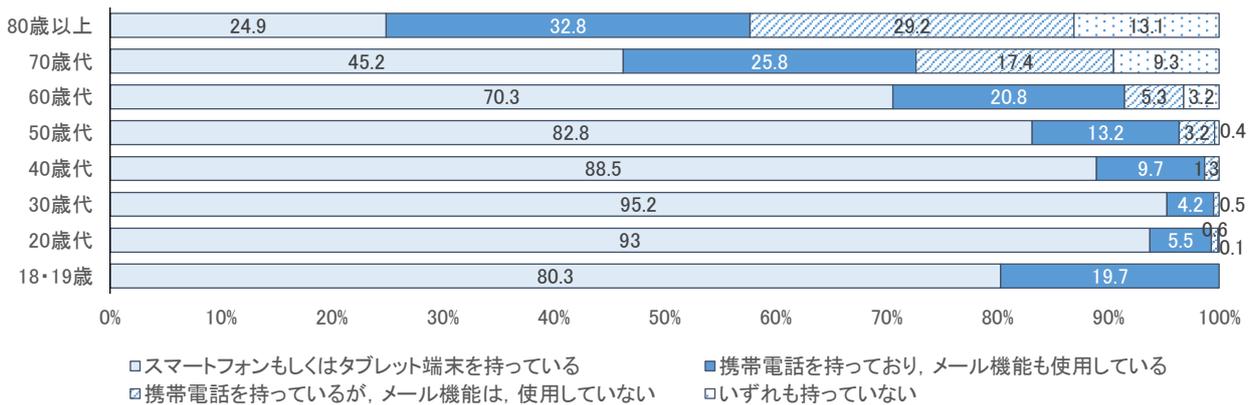
(2) 【行動目標】 災害発生の危険性をいち早く「察知する」

行動計画に掲げる 成果指標項目	調査結果								R2 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (9月)	H29 (2月)	H30 (3月)	H31 (2月)	R2 (3月)	R3 (3月)	
県, 市町の防災情報メールを登録している人の割合	8.4%	10.4%	11.3%	11.3%	22.8% (※)	27.0% (※)	31.1% (※)	<b>32.9%</b> (※)	40.0%

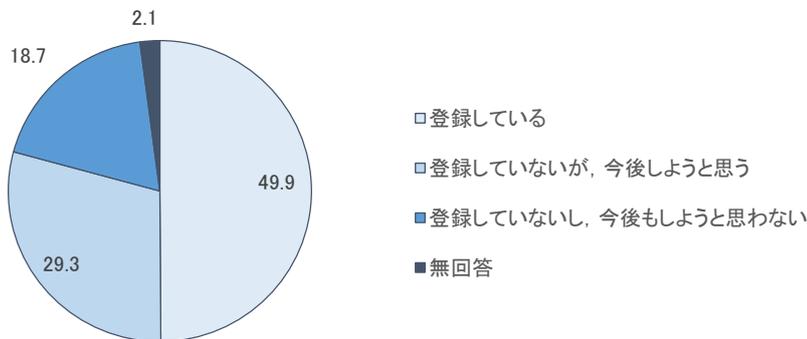
※ ヤフーと協議し、H30.3.27 から、「Yahoo!防災速報」(スマートフォンアプリ, メール)からも県防災情報メールと同様の情報がプッシュ配信されることとなったことから、この度の数値は、防災情報メールの登録者数に「Yahoo!防災速報」登録者数を加えて算出している。

- アンケートでは、携帯電話・スマートフォン、タブレット端末を持っている人(9割台半ば)で、約5割「49.9%」が登録している。
- 登録していない理由は、「登録方法が分からないから」が5割超「51.1% (50.5%) ※」と最も割合が高い。 ※ 「R3.2 調査数値 (R2.2 調査数値)」

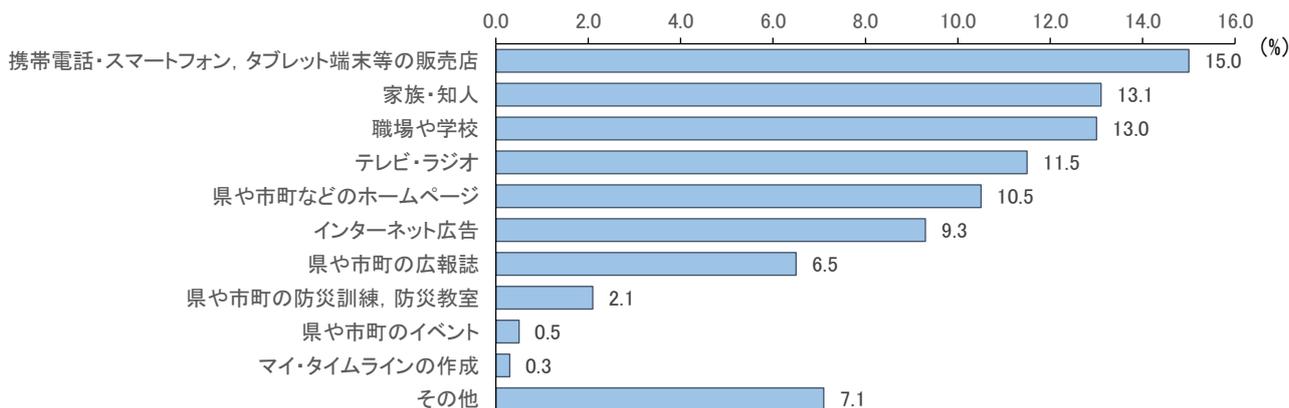
<スマートフォン、携帯電話等の所持状況 (Ⅱ: 問7) >



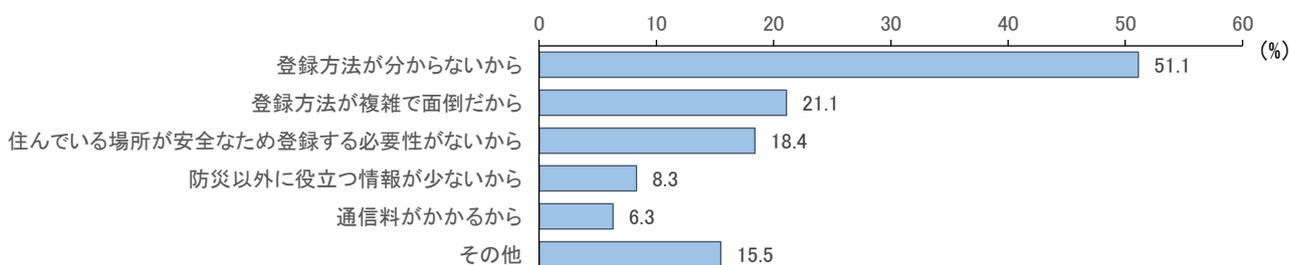
<防災情報メールや防災アプリの登録状況 (Ⅱ: 問8) >



＜防災情報メールや防災アプリを登録したきっかけ（Ⅱ：問8-1）＞



＜防災情報メールや防災アプリを登録していない理由（Ⅱ：問8-2）＞



ア 有識者による分析や示唆など

- 高齢者の携帯電話やスマートフォンの保有率は6割強もあり、メール機能も活用していることを考慮すると、防災情報メールの登録割合は、まだ増加する余地は十分にあると考えられる。
- 携帯電話等の販売店や家族・知人などに対面的に登録を呼びかけられ、かつ登録方法も同時に教えてもらえる状態により登録が促進されることが考えられる。
- 学生を中心とした「登録方法が複雑で面倒」という層を取り込むため、防災情報メール登録のメリットや有用性を広報するとともに、登録方法をできるだけ簡略化することが必要である。

イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

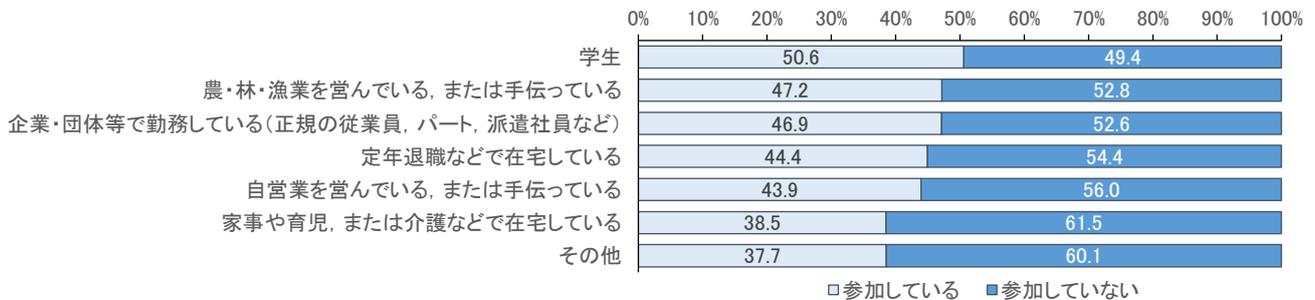
- 子育てサークルや地域の高齢者サロン等で行う防災教室において、防災情報メールの登録方法の周知と登録の支援に取り組む。
- 通信事業者に引き続き協力いただき、携帯電話の新規契約や更新時を捉えた防災情報メールの登録の促進に取り組む。
- 報道機関と連携し、テレビやラジオ等の各種メディアや「みんなで減災推進大使」等を活用して、防災情報メールの効能や登録方法などについて、分かりやすい説明を行うよう取り組む。

(3) 【行動目標】 自ら判断して適切に「行動する」及び  
防災教室や防災訓練などで「学ぶ」

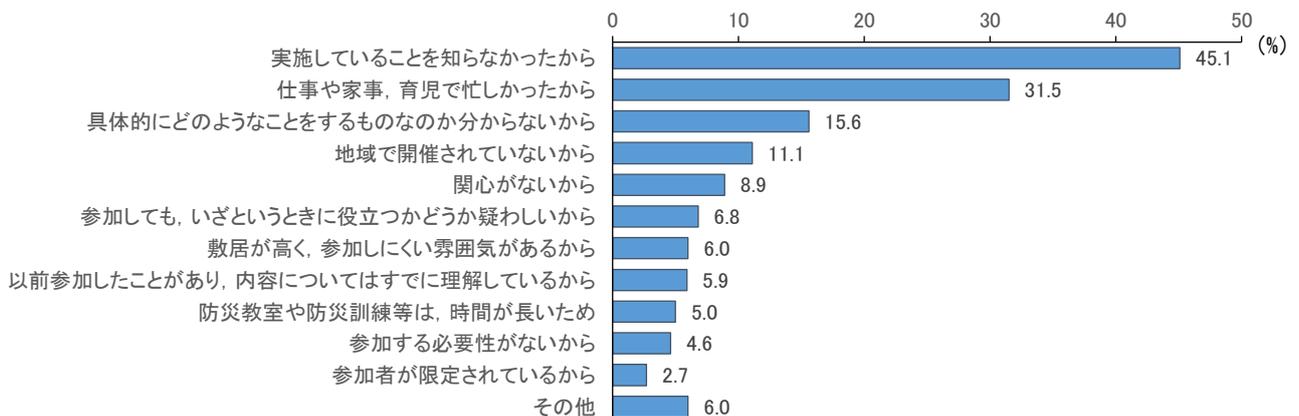
行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果								R2 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)	R3 (2月)	
防災教室・防災訓練へ参加した人の割合	35.1%	30.7%	32.9%	36.8%	39.4%	29.3%	41.5%	<b>44.9%</b>	60.0%

- 防災教室・防災訓練への参加割合は「家事や育児などで在宅」で「38.5%」と最も低くなっている。
- 防災教室・防災訓練に参加しなかった理由は、「実施していることを知らなかったから」が「45.1%」と最も割合が高く、次いで「仕事や家事，育児で忙しかったから」が「31.5%」となっている。
- 参加しなかった理由で、「仕事や家事，育児で忙しかったから」は「企業・団体勤務」で「42.2%」，「実施していることを知らなかったから」は「学生」で「52.8%」と他の生活形態に比べ割合が高くなっている。
- 「以前参加したことがあり，内容についてはすでに理解しているから」は，「農林漁業」で「27.7%」と他の生活形態に比べ割合が高くなっている。

<過去1年間における防災教室・防災訓練への参加状況（Ⅱ：問12）>



<防災教室・防災訓練に参加しなかった理由（Ⅱ：問12-1）>



## ア 有識者による分析や示唆など

- 地域とのつながりが薄い人の参加率が特に低く、10代・20代の若年層や企業・団体勤務者は地域の防災訓練等ではなく、職場や学校の防災訓練等への参加率が比較的高いため、職場や学校での防災訓練を強化することが必要である。
- 防災訓練等に参加しなかった最大の理由は「実施していることを知らなかった」であるため、地域における防災訓練の実施日等の周知が課題である。
- また、「仕事や家事・育児で忙しかったから」も依然として多いため、短時間で実施できる防災訓練のプログラムを普及させる必要がある。
- さらに、防災訓練の実施日を仮に周知徹底できたとしても、開催日に参加できる人ばかりではないため、日時を選ばず自分の都合の良い時に、短時間で、一人で、もしくは家族で実施できる防災訓練のプログラムを開発し、インターネット上で提供するなどの工夫が必要である。

## イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

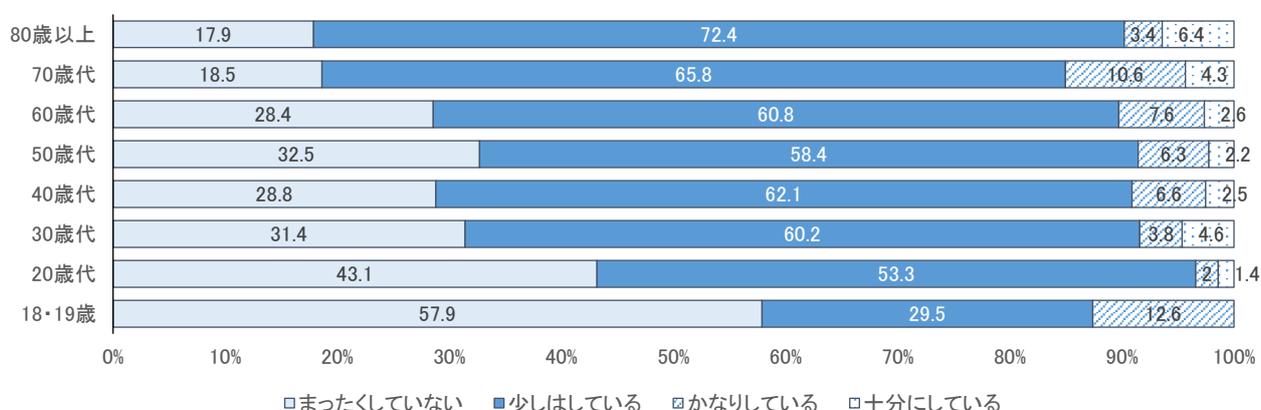
- 引き続き、全県民を対象とした「一斉防災教室」や「一斉地震防災訓練」を実施し、学校や企業だけでなく、地域での防災訓練の実施を呼びかけ、県内各地で継続して防災訓練が開催されるよう取り組む。
- 報道機関と連携し、テレビやラジオ等の各種メディアや「みんなで減災推進大使」等を活用して、防災訓練への参加促進を促すとともに、県が実施する「一斉地震防災訓練」などの防災訓練の周知に取り組む。
- 「Yahoo!防災速報」などの民間の防災アプリと連携し、短時間で手軽に行える防災訓練の普及促進に取り組む。

### (4) 【行動目標】 非常持出品を準備するなど災害に「備える」

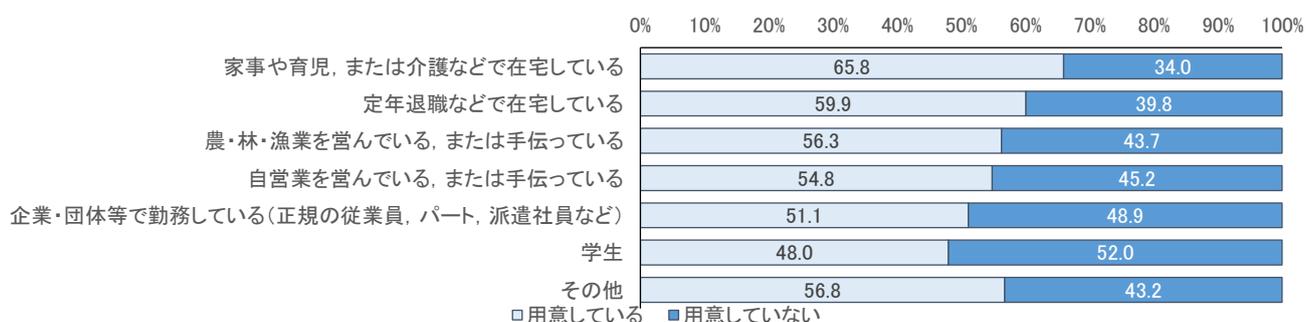
行動計画に掲げる成果指標項目	調査結果								R2 (目標)
	H26	H27 (10月)	H28 (8月)	H29 (2月)	H30 (2月)	H31 (2月)	R2 (2月)	R3 (2月)	
非常持出品を用意している人の割合	52.8%	51.5%	65.9%	67.6%	67.4%	66.5%	69.1%	<b>70.8%</b>	—
上記を用意し、かつ3日以上 の食糧及び飲料水を備蓄している人の割合	—	—	—	46.7%	50.5%	48.1%	52.3%	<b>54.6%</b>	70.0%
家具等の転倒防止を行っている人の割合	—	—	—	43.9%	56.6%	44.7%	49.0%	<b>51.6%</b>	70.0%

- 非常持出品を用意している人の割合について、学生や単身者の多い「20歳未満（42.1%）」を除くすべての年代で半数を超え高くなっており、男女の差異にも大きな差はみられない。
- 非常持出品を用意し、かつ3日以上以上の食料及び飲料水を備蓄している人の割合は、年代別では「70歳代（62.7%）」、「80歳以上（66.7%）」で6割を超え、生活形態別では「家事や育児などで在宅」で6割台半ば（65.8%）と高くなっている。
- 家具等の転倒防止を行っていない人の割合は、「80歳以上」で6割台半ば「（65.6%）」と高くなっている。

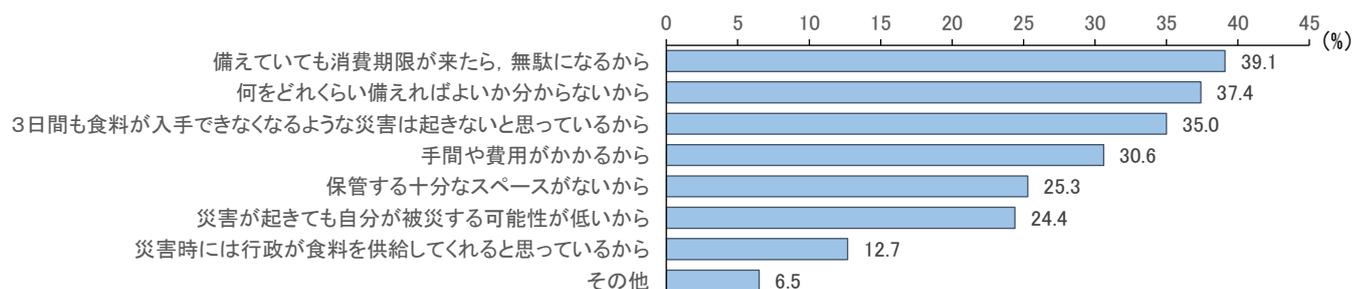
<非常持出品の準備状況「年齢別」(Ⅱ：問11)>



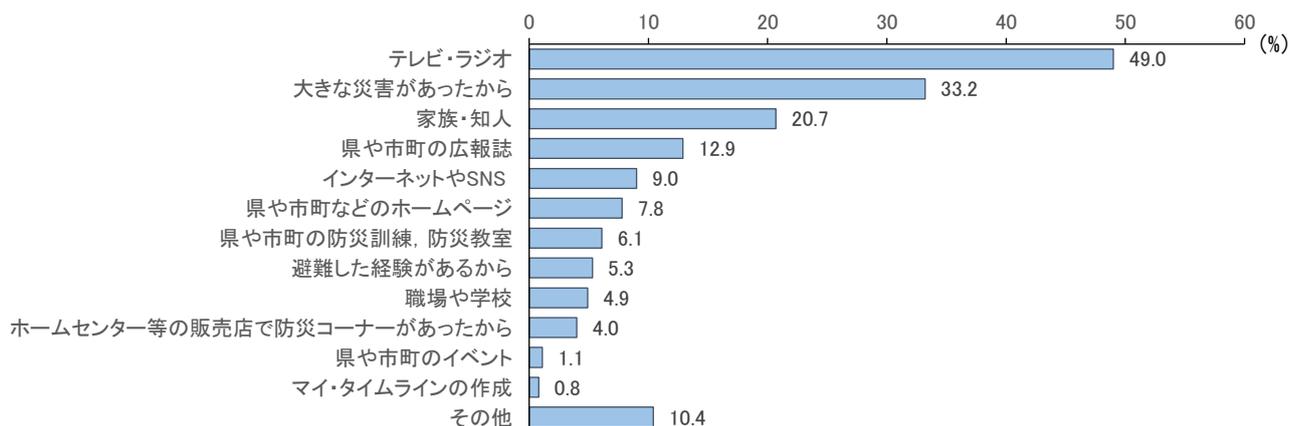
<非常持出品を準備し、かつ3日以上以上の食料品等の備蓄を用意している人の割合「生活形態別」(Ⅱ：問11)>



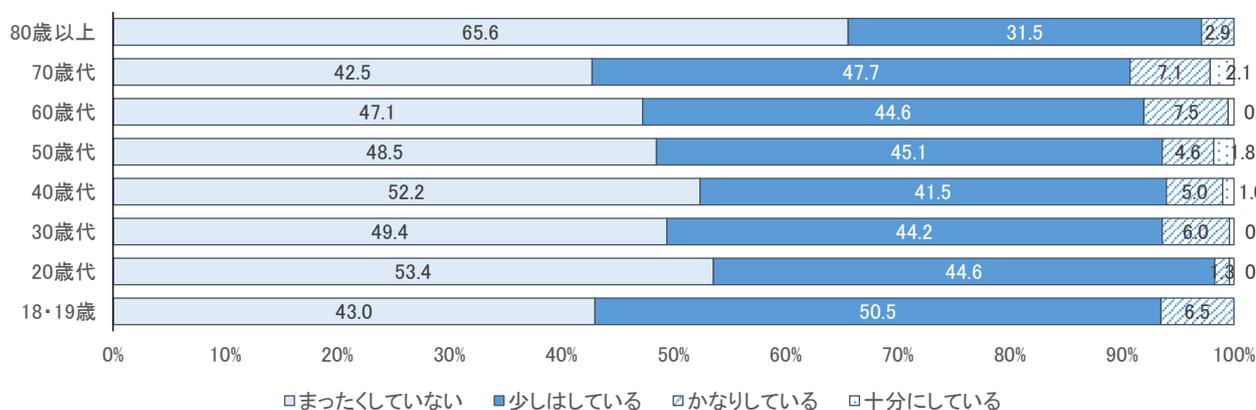
<備蓄を行わない理由(Ⅱ：問10-2)>



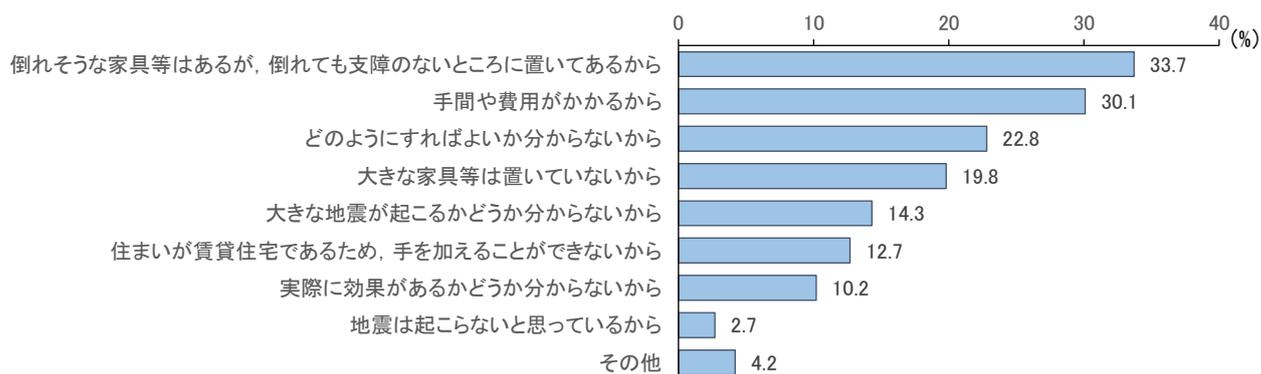
< 備蓄を行ったきっかけ（Ⅱ：問10-3） >



< 家具などの転倒防止の実施状況「年齢別」（Ⅱ：問13） >



< 家具などの転倒防止を行っていない理由（Ⅱ：問13-1） >



## ア 有識者による分析や示唆など

- 10代・20代の若年層や地域とのつながりが薄い人の備蓄の割合が低く、備蓄しない理由として、「保管する十分なスペースがない」や「備えていても消費期限が来たら無駄になる」が多いことから、この層へのローリングストック法のこれまで以上の周知や、備蓄品の保管に必要なスペースなどの情報発信が必要である。その際には、普段の生活の延長でできるという観点を強調し、特殊なものでなく、普段消費しているレトルト食品などの身近な例で啓発する必要がある。
- また、「何をどれくらい備えればよいかわからない」と考えている人が多くいるため、1人当たり3日分の飲料水と食料の具体的な品目や量、価格などについての情報発信が必要である。
- さらに、「3日間も食料が入手できなくなるような災害は起きないと思っている」と考える人も多いということは、備蓄食料が必要になる事態への理解が十分ではないと考えられるため、「食料を備蓄していてよかったと思える事態」が想像より頻繁に生じ得ることを具体的にイメージできるような啓発が必要である。
- 家具等の転倒防止を「今後もしようと思わない」人が約4割と比較的高いことや、転倒防止を行っていない理由として、「倒れそうな家具等はあるが倒れても支障のないところに置いてあるから」や「手間や費用がかかるから」が多いことから、家具等の転倒防止を行わなければならない理由の理解不足や、転倒防止を行うコストに見合うだけのメリットを実感できていない可能性がある。
- 備蓄や家具等の転倒防止を行うきっかけとして、テレビ・ラジオが最も多いことから考えると、これらを活用した広報は有効であるものと考えられる。
- また、どの家具の転倒防止をしなければならないのか、どのくらいの震度でどの家具が落ちたり倒れたりする可能性があるのか、費用や手間はどのくらいかかるのかといった具体的な情報を発信する必要がある。

## イ 有識者による分析や示唆を受けての取組等

- 報道機関と連携し、テレビやラジオ等の各種メディアや「みんなで減災推進大使」等を活用して、災害備蓄品のローリングストック法や具体的な品目や量、保管に必要なスペースなどの情報だけでなく、家具の転倒防止のメリットや家具の固定方法などの具体的な情報発信に取り組む。
- 引き続き、「備えるフェア」を開催し、小売店舗やホームセンター等の協力を得て、非常持出品や備蓄品の販売促進や、来店者に対する備えの必要性などの啓発に取り組む。

- 「Yahoo!防災速報アプリ」と連携して、そのアプリ内で、家族構成や生活環境に対応した災害時に必要な備蓄品の品目や量の推奨を行い、3日分以上の食料及び飲料水を備蓄している人の割合を増やすよう取り組む。
- 「ひろしまマイ・タイムライン」において、現行の風水害だけでなく、地震にも対応できるよう、有識者や関係者と協議し、地震版のマイ・タイムライン作成の検討に取り組む。

# 調查票

## 防災・減災に関するアンケートへのご協力をお願い

日頃から県行政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

広島県では、平成26年8月の土砂災害の教訓を踏まえ、県民の皆様お一人お一人に、いつ、どこで起きるかも分からない自然災害から、ご自分の命を守るための行動をとっていただくことができるよう、平成27年4月から、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動を展開しています。

この運動の推進にあたり、防災・減災に関する県民の皆様の意識や行動内容及び情報の入手手段などの実態を把握して、今後の防災・減災対策に活かすため、概ね年に一度、防災・減災に関するアンケートを行うこととしております。

このアンケートは県内にお住まいの18歳以上の方5,000人を選挙人名簿から無作為に選んで行うものです。調査で得た結果はすべて統計的に処理をし、調査以外の目的では使用いたしませんので、皆様にご迷惑がかかることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、自然災害による死者ゼロの実現を目指し、この取組を今後、さらに効果的に進めていくため、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和3年2月

広島県危機管理監みんなで減災推進課

### ご記入にあたってのお願い

- 質問は、全部で約50問あります。ご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。  
ご本人の記入が難しい場合は、ご本人の意向を確認いただき、ご家族の方等がご記入ください。
- 調査票や封筒にあなたのご住所、お名前を記入する必要はありません。
- アンケートの所要時間は15分程度です。
- ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をしてください。選択肢で「その他」を選択した場合は（ ）内に内容を具体的にご記入ください。
- ご回答は、設問ごとに（○は1つ）（○はいくつでも）など指定されていますので、ご注意ください。
- 設問によって回答していただく方が限られる場合があります。説明文や矢印に従ってお進みください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）で**3月12日（金）**までに投函してください。返送先は調査の実施・集計を委託している株式会社サーベイリサーチセンターになります。

広島県危機管理監みんなで減災推進課

住所：〒730-8511 広島市中区基町10番52号

電話：082-513-2781

FAX：082-227-2122

Eメール：kikigensai@pref.hiroshima.lg.jp



【全員にお尋ねします。】

問3 あなたは、市町が指定している避難場所のイメージをどう持たれていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

避難場所のイメージ	あてはまる	あやてはまる	なああまりはまら	なあいてはまら
①トイレが不便	1	2	3	4
②プライバシーがない	1	2	3	4
③風呂に入れない	1	2	3	4
④エアコンが効かない	1	2	3	4
⑤自由に使える電源がない	1	2	3	4
⑥飲食物が手に入らない	1	2	3	4
⑦要配慮者（子どもや高齢者等）が居づらい	1	2	3	4
⑧授乳場所がない	1	2	3	4
⑨ペットを連れていけない	1	2	3	4
⑩不衛生である	1	2	3	4
⑪感染症（新型コロナウイルス感染症等）への対策がとられていない	1	2	3	4

問4 あなたは、市町が指定している避難場所での設備の有無などについて、知っていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが知りたい	知らないし知る必要がない
①駐車場の有無や駐車可能な台数	1	2	3
②洋式トイレの有無や数	1	2	3
③エアコン設置の有無	1	2	3
④水や食料、シートや毛布などの備蓄品の種類や量	1	2	3
⑤テレビやラジオの有無	1	2	3
⑥ペットの受け入れの可否	1	2	3
⑦風呂やシャワー設備の有無	1	2	3
⑧避難場所までの経路の安全性（途中に川や土砂災害の危険のある地域がないか）	1	2	3
⑨非常用電源の有無	1	2	3
⑩プライバシーの確保	1	2	3

問5 あなたは、市町が指定している避難場所で行われている、新型コロナウイルス感染症対策について、知っていますか。各項目についてそれぞれ該当する番号1つに○をつけてください。

	知っている	知らないが 知りたい	知らないし 知る必要が ない
①アルコール消毒の準備	1	2	3
②検温の実施	1	2	3
③発熱者とそうでない人の分離	1	2	3
④「3密」を防ぐためのテントや間仕切りの導入	1	2	3
⑤ソーシャルディスタンスの確保	1	2	3
⑥マスクの準備	1	2	3
⑦定期的な換気の実施	1	2	3
⑧共用部分の定期的な清掃	1	2	3
⑨車中避難用の避難先の確保	1	2	3
⑩以前よりも多くの避難場所を開設	1	2	3
⑪以前よりも避難場所内の多くの部屋を開放	1	2	3
⑫定員の見直し	1	2	3

問6 あなたのお住まいの場所では、どのような災害の危険性が想定されているか知っていますか。(○は1つ)

- 1 知っている                    → 問7～9へ
- 2 知りたいが知らない → 問10へ
- 3 知りたくない               → 問10へ

**【問6で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】**

問7 どのような災害による危険性を認知されましたか。(○はいくつでも)

- 1 土砂災害
- 2 洪水による浸水
- 3 高潮による浸水
- 4 津波による浸水
- 5 地震に伴う家屋等の倒壊など
- 6 危険性はない

【問6で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問8 あなたのお住まいの地域の災害の危険性の有無をどのようなきっかけで知りましたか。(〇はいくつでも)

- 1 自分でパソコンを使ったり、人に聞いたりして調べた
- 2 家族に聞いた(話し合った)
- 3 地域の方(個人, 自主防災組織, 消防団)に教えてもらった
- 4 地域の住民ではない友人や知人に教えてもらった
- 5 市役所(町役場)の人に教えてもらった
- 6 職場で教えてもらった
- 7 学校で教えてもらった
- 8 「マイ・タイムライン」<sup>(※)</sup>の作成を通じて知った
- 9 自ら災害を経験した
- 10 家族(親戚)・知人が災害を経験した
- 11 その他( )

※マイ・タイムライン: 災害が発生する危険が生じた際、自分や家族の命を守るために、いつのタイミングで何をすべきか、また、いつ避難するのかなどをあらかじめ記載した「自らの防災行動計画」

【問6で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問9 災害の危険性の有無を確認した方法をお答えください。(〇はいくつでも)

- 1 県の防災Web や市町のホームページなどで公開されているハザードマップ<sup>(※)</sup>
- 2 市町が紙に印刷して配布したハザードマップ<sup>(※)</sup>
- 3 県の防災Web や市町のホームページなどで公開している震度分布図, 揺れやすさマップ, 土砂災害危険箇所図, 土砂災害警戒区域図・特別警戒区域図, 洪水・高潮・津波浸水想定区域図等
- 4 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 5 実際に地域を歩いてみた
- 6 その他( )

※ハザードマップ: 自然災害(地震・津波・洪水・土砂災害等)による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被害想定区域や避難場所などを表示した市町が作成する地図

【全員にお尋ねします。】

問 10 災害の危険性の有無を確認するに当たって、困っていることをお答えください。  
(○はいくつでも)

- 1 どうやって確認するか分からない
- 2 忙しくて確認する時間がない
- 3 調べても県や市町などが提供する情報が分かりにくい
- 4 その他 ( )
- 5 危険性を確認する必要性を感じない
- 6 困っていることはない

問 11 令和元年6月から、警戒レベルを用いた避難情報等が発令・発表されていますが、あなたは、事前に避難のタイミングを決めていますか。(○は1つ)

- 1 警戒レベル3(避難準備・高齢者等避難開始)、警戒レベル4(避難勧告・避難指示(緊急))の避難情報で避難することを決めている
- 2 大雨・洪水注意報、大雨・洪水警報などの気象情報で避難することを決めている
- 3 水位などの周辺の状況で避難することを決めている
- 4 家族と話しあって決めている
- 5 その他 ( )
- 6 避難するタイミングを決めていない

問 12 令和元年6月から広島県や各マスコミでは、「あなたが避難することが、みんなの命を救うことにつながります」というメッセージを使用して避難を呼びかけていますが、あなたは、このことを知ったり、聞いたりしたことがありますか。

(○は1つ)

- 1 知っている
- 2 知らない

## Ⅱ あなたの災害に対する備えや災害時の行動についてお尋ねします

問1 県では、平成27年4月から、「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」を展開しています。この運動をご存じですか。下記の5つの行動目標を確認してお答えください。(○は1つ)

- 1 行動目標を含めて、知っていた
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった
- 3 まったく知らなかった

### ※5つの行動目標

#### 【災害から命を守るための行動】

1 「知る」

身の周りの災害危険箇所や災害の種類に応じた避難場所・経路の確認

2 「察知する」

危険を知らせる気象情報・避難情報を確認する。

3 「行動する」

災害から命を守るために自ら判断して適切に行動する。

#### 【普段から災害に備えるための行動】

4 「学ぶ」

学校、職場、地域で行われる防災教室・防災訓練に参加する。

5 「備える」

非常持出品の準備。建物の耐震化や家具の転倒防止対策を進める。

問2 あなたは、いざという時に備えて、「マイ・タイムライン」<sup>(※)</sup>を作成していますか。  
(○は1つ)

※マイ・タイムライン：災害が発生する危険が生じた際、自分や家族の命を守るために、いつのタイミングで何をすべきか、また、いつ避難するのかなどをあらかじめ記載した「自らの防災行動計画」

- 1 作成している
- 2 作成していない

問3 あなたは、「ひろしまマイ・タイムライン」<sup>(※)</sup>を知っていましたか。(○は1つ)

※ひろしまマイ・タイムライン：県民の皆様から自らの防災行動計画を作成していただくため、本県が令和2年度から開始した取組。マイ・タイムライン教材は、広島県特有の土砂災害のリスクの認識を高めるため、土砂災害の種類・メカニズムや、過去の発生事例等を掲載している。今年度、県内すべての小学校に冊子版の教材を配布。また、幅広い層の県民の皆様から作成していただけるよう、ウェブ上での作成が可能な、デジタル版教材も用意している。

【冊子版】



【デジタル版】

デジタル版ウェブサイトのQRコード



<https://www.gensai.pref.hiroshima.jp/mytimeline/>



- 1 知っており、作成した → 問3-1, 問3-3へ
- 2 知ってはいたが、作成はしていない → 問3-2, 問3-3へ
- 3 知らなかった → 問4へ

【問3で「1 知っており、作成した」と回答した方にお尋ねします。】

問3-1 作成した「ひろしまマイ・タイムライン」は、次のうちどれですか。

(○は1つ)

- 1 小学校で宿題として出された冊子版（小学生用）
- 2 冊子版（一般用：「保存用」とだけ右上に記載されているもの）
- 3 デジタル版（専用ウェブサイトで作成）

【冊子版（小学生用）】



【冊子版（一般用）】



【問3で「2 知ってはいたが、作成はしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問3-2 作成しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- 1 興味はあったが、どうやって教材を入手したら良いか分からなかった
- 2 面倒だった
- 3 作成する必要性が分からなかった
- 4 難しそうだった
- 5 興味がない
- 6 その他 ( )

【問3で「1 知っており、作成した」「2 知ってはいたが、作成はしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問3-3 「ひろしまマイ・タイムライン」をどこで知りましたか。(○はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 県や市町の防災教室
- 5 県のSNS (ツイッター、フェイスブック)
- 6 県以外のSNS
- 7 子どもの宿題
- 8 職場や学校
- 9 家族・知人
- 10 その他 ( )

**【全員にお尋ねします】**

問4 あなたは、お住まいの地域で発生するおそれのある災害の危険性に応じた避難場所や避難経路の確認を行っていますか。(○は1つ)

- 1 まったくしていない → 問4-1へ
  - 2 少しはしている
  - 3 かなりしている
  - 4 十分にしている
- } 問4-2へ

**【問4で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】**

問4-1 今後、「避難場所や避難経路の確認」をしようと思いませんか。(○は1つ)

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

**【問4で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】**

問4-2 避難場所、避難経路はどのような方法で確認しましたか。(○はいくつでも)

- 1 市町が配布したハザードマップ
- 2 県のホームページや国や市町などのホームページ
- 3 地域住民が独自に作成した防災マップ
- 4 地域の方(個人, 自主防災組織, 消防団など)から教えてもらった
- 5 市役所(町役場)の人から聞いた
- 6 防災教室や防災訓練
- 7 その他( )

**【全員にお尋ねします。】**

問4-3 あなたは、避難する場所を複数か所決めていませんか。また、避難場所までの避難経路の確認を行っていますか。なお、避難する場所は、市町が指定している避難場所でなくとも、安全な場所(親族・知人宅, 宿泊施設など)であれば構いません。(○は1つ)

- 1 複数か所決めており、経路の確認も行っている
- 2 複数か所決めているが、経路の確認は行っていない
- 3 1か所だけ決めている
- 4 まったく決めていない

問5 あなたは、「分散避難」<sup>(※)</sup>という考え方を知っていますか。(○は1つ)

※分散避難：感染症が広がるリスクを下げることを目的として、市町が指定する避難場所以外にも、親戚・知人宅、宿泊施設など、様々な避難先に、地域の人たちが分散して避難するという考え方

- 1 知っている → 問5-1へ
- 2 知らない → 問6へ

【問5で「1 知っている」と回答した方にお尋ねします。】

問5-1 「分散避難」を知ったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットやSNS
- 5 県や市町のイベント
- 6 職場や学校
- 7 家族・知人
- 8 その他 ( )

【全員にお尋ねします。】

問6 災害が予見される場合に、気象情報や、大雨警報、避難情報などの防災情報をどのような方法で入手していますか。(○はいくつでも)

- 1 テレビ
- 2 テレビのデータ放送
- 3 ラジオ
- 4 インターネット
- 5 県や市町の防災情報メール
- 6 市町の防災無線
- 7 スマートフォンなどに登録したアプリ
- 8 ツイッターやフェイスブックなどのSNS
- 9 町内の人や消防団等からの連絡
- 10 固定電話向けの一斉電話伝達サービス
- 11 その他 ( )
- 12 入手していない

問7 あなたは、携帯電話・スマートフォンもしくはタブレット端末を持っていますか。(○は1つ)

- 1 スマートフォンもしくはタブレット端末を持っている
- 2 携帯電話を持っており、メール機能も使用している
- 3 携帯電話を持っているが、メール機能は、使用していない
- 4 いずれも持っていない

問8 あなたは、県又は市町の防災情報メールや防災アプリなどの登録を行っていますか。登録していない方は今後の登録意向をお答えください。(〇はいくつでも)

- |                        |   |       |
|------------------------|---|-------|
| 1 県や市町の防災メール           | } | 問8-1へ |
| 2 Yahoo!防災速報           |   |       |
| 3 NHK ニュース・防災アプリ       |   |       |
| 4 goo 防災アプリ            |   |       |
| 5 全国避難所ガイド アプリ         |   |       |
| 6 その他 ( )              |   |       |
| 7 登録していないが、今後しようと思う    | } | 問8-2へ |
| 8 登録していないし、今後もしようと思わない |   |       |

【問8で「1～6」と回答した方にお尋ねします。】

問8-1 防災情報メール、防災アプリなどを登録した理由、きっかけは何ですか。

(〇は1つ)

- |                 |                              |
|-----------------|------------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ | 7 県や市町の防災訓練、防災教室             |
| 2 テレビ・ラジオ       | 8 職場や学校                      |
| 3 県や市町の広報誌      | 9 家族・知人                      |
| 4 インターネット広告     | 10 携帯電話・スマートフォン、タブレット端末等の販売店 |
| 5 県や市町のイベント     | 11 その他 ( )                   |
| 6 マイ・タイムラインの作成  |                              |

【問8で「7 登録していないが、今後しようと思う」「8 登録していないし、今後もしようと思わない」と回答した方にお尋ねします。】

問8-2 登録していない理由は何ですか。(〇は3つまで)

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 登録方法が分からないから              | 4 防災以外に役立つ情報が少ないから |
| 2 登録方法が複雑で面倒だから             | 5 通信料がかかるから        |
| 3 住んでいる場所が安全なため登録する必要性がないから | 6 その他 ( )          |

【全員にお尋ねします。】

問9 あなたは、避難するかどうかの判断をする際に、行政が発する災害情報をどの程度参考にしますか。(〇は1つ)

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 かなり参考にする      | 3 どちらかといえば参考にしない |
| 2 どちらかといえば参考にする | 4 まったく参考にしない     |

問 10 あなたは、現在、3日分以上の食料や飲料水の備蓄を行っていますか。(○は1つ)

- 1 まったくしていない→問 10-1へ
  - 2 少しはしている
  - 3 かなりしている
  - 4 十分にしている
- } 問 10-3へ

【問 10 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 10-1 今後、「3日分以上の食料や飲料水の備蓄」を行おうと思いますか。

(○は1つ)

- 1 今後しようと思う→問 11へ
- 2 今後もしようと思わない→問 10-2へ

【問 10-1 で「2 今後もしようと思わない」と回答した方にお尋ねします。】

問 10-2 今後、備蓄をしようと思わないのは、なぜですか。

(○はいくつでも)

- 1 何をどれくらい備えればよいか分からないから
- 2 災害が起きても自分が被災する可能性が低いから
- 3 手間や費用がかかるから
- 4 備えていても消費期限が来たら、無駄になるから
- 5 保管する十分なスペースがないから
- 6 3日間も食料が入手できなくなるような災害は起きないと思っているから
- 7 災害時には行政が食料を供給してくれると思っているから
- 8 その他 ( )

【問 10 で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 10-3 「3日分以上の食料や飲料水の備蓄」を行ったきっかけは、なんですか。

(○はいくつでも)

- 1 県や市町などのホームページ
- 2 テレビ・ラジオ
- 3 県や市町の広報誌
- 4 インターネットや SNS
- 5 県や市町のイベント
- 6 県や市町の防災訓練、防災教室
- 7 マイ・タイムラインの作成
- 8 職場や学校
- 9 家族・知人
- 10 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから
- 11 避難した経験があるから
- 12 大きな災害があったから
- 13 その他 ( )

**【全員にお尋ねします。】**

問 11 あなたは、現在、食料と飲料水以外の非常持出品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の準備を行っていますか。（○は1つ）

- 1 まったくしていない → 問 11-1 へ
- 2 少しはしている
- 3 かなりしている
- 4 十分にしている

} 問 12 へ

**【問 11 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】**

問 11-1 今後、食料と飲料水以外の非常持出品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の準備を行おうと思いますか。（○は1つ）

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

**【全員にお尋ねします。】**

問 12 あなたは、過去1年間に、ご自宅で防災について学んだり、地域、職場、あるいは学校で、防災教室や防災訓練等に参加したりしましたか。学習・参加した内容をお答えください。（○はいくつでも）

- 1 地域の防災教室や防災訓練等
- 2 職場、または学校の防災教室や防災訓練等
- 3 県が実施している6月の「一斉防災教室<sup>※1</sup>」、もしくは、11月の「一斉地震防災訓練<sup>※2</sup>」
- 4 マイ・タイムラインの作成を通じて学習
- 5 防災に関する講演会やイベント、テレビ番組等で学習
- 6 インターネットで学習
- 7 近所同士・仲間などの集いの場で、防災について話し合った
- 8 家庭で防災について話し合った
- 9 その他（）
- 10 上記のいずれも参加していない → 問 12-1 へ

※1 一斉防災教室：県が作成した教材をもとに災害危険箇所、避難場所及び避難経路の確認や状況に応じた避難行動などを身につけていただくため、昨年5～6月にかけて行った取組

※2 一斉地震防災訓練：県が作成した教材をもとに、昨年11月に行った、地震から命を守るための行動をとる訓練

【問 12 で「10 上記のいずれにも参加していない」と回答した方にお尋ねします。】

問 12-1 防災教室や防災訓練等に参加されなかったのは、なぜですか。(○はいくつでも)

- 1 防災教室や防災訓練等は、時間が長いため
- 2 以前参加したことがあり、内容についてはすでに理解しているから
- 3 敷居が高く、参加しにくい雰囲気があるから
- 4 参加する必要性がないから
- 5 関心がないから
- 6 具体的にどのようなことをするものなのか分からないから
- 7 参加者が限定されているから
- 8 参加しても、いざというときに役立つかどうか疑わしいから
- 9 仕事や家事、育児で忙しかったから
- 10 その他 ( )
- 11 実施していることを知らなかったから
- 12 地域で開催されていないから

【全員にお尋ねします。】

問 13 あなたは、今現在、家具などの転倒の防止<sup>(※)</sup>を行っていますか。(○は1つ)

※家具などの転倒の防止…金具や突っ張り棒、ベルト等による家具固定、転倒防止板の挟み込みなどによる対策のほか、寝室にはできるだけ家具を配置しないなど、地震によって家具等の下敷きにならないための備えも含む

- 1 まったくしていない → 問 13-1、問 13-2 へ
  - 2 少しはしている
  - 3 かなりしている
  - 4 十分にしている
- } 問 13-3 へ

【問 13 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-1 家具などの転倒防止を行っていないのはなぜですか。(○はいくつでも)

- 1 どのようにすればよいか分からないから
- 2 大きな地震が起こるかどうかわからないから
- 3 手間や費用がかかるから
- 4 実際に効果があるかどうか分からないから
- 5 倒れそうな家具等はあるが、倒れても支障のないところに置いてあるから
- 6 大きな家具等は置いていないから
- 7 地震は起こらないと思っているから
- 8 住まいが賃貸住宅であるため、手を加えることができないから
- 9 その他 ( )

【問 13 で「1 まったくしていない」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-2 今後、家具などの転倒防止を行おうと思いますか。(○は1つ)

- 1 今後しようと思う
- 2 今後もしようと思わない

【問 13 で「2 少しはしている」「3 かなりしている」「4 十分にしている」と回答した方にお尋ねします。】

問 13-3 家具などの転倒の防止を行ったきっかけは何ですか。(○はいくつでも)

- |                   |                             |
|-------------------|-----------------------------|
| 1 県や市町などのホームページ   | 7 職場や学校                     |
| 2 テレビ・ラジオ         | 8 家族・知人                     |
| 3 県や市町の広報誌        | 9 ホームセンター等の販売店で防災コーナーがあったから |
| 4 インターネットや SNS    | 10 避難した経験があるから              |
| 5 県や市町のイベント       | 11 大きな災害があったから              |
| 6 県や市町の防災教室, 防災訓練 | 12 その他 ( )                  |





問 12 あなたの町内では、防災活動（防災訓練（避難訓練、炊き出し訓練、救助訓練など（消火訓練のみは除く。)), 防災に関する啓発・学習活動など）は活発ですか。（○は1つ）

- |            |         |
|------------|---------|
| 1 活発       | 4 活発でない |
| 2 やや活発     | 5 分からない |
| 3 あまり活発でない |         |

問 13 県では、災害から命を守るために、県民のみなさんにとっていただきたい行動などを分かりやすく掲載した、ホームページ「みんなで減災 はじめの一步」を開設しています。このホームページについてご存知ですか。（○は1つ）

- 1 知っており、利用したことがある
- 2 聞いたことはあるが、利用したことはない
- 3 聞いたことがない

問 14 防災・減災について自由なご意見をお願いします。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。